

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成27年2月10日

【四半期会計期間】 第24期第3四半期(自平成26年10月1日至平成26年12月31日)

【会社名】 株式会社日本M & Aセンター

【英訳名】 Nihon M&A Center Inc.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 三宅 卓

【本店の所在の場所】 東京都千代田区丸の内一丁目8番3号

【電話番号】 03-5220-5454

【事務連絡者氏名】 専務取締役 管理本部長 榎木 孝 磨

【最寄りの連絡場所】 東京都千代田区丸の内一丁目8番3号

【電話番号】 03-5220-5454

【事務連絡者氏名】 専務取締役 管理本部長 榎木 孝 磨

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第23期 第3四半期 連結累計期間	第24期 第3四半期 連結累計期間	第23期
会計期間		自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日	自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日	自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日
売上高	(千円)	7,602,325	9,181,617	10,547,519
経常利益	(千円)	4,042,369	4,999,184	5,496,012
四半期(当期)純利益	(千円)	2,421,797	3,166,330	3,344,321
四半期包括利益又は包括利益	(千円)	2,432,575	3,170,888	3,337,261
純資産額	(千円)	9,999,028	12,633,707	10,903,711
総資産額	(千円)	12,369,650	15,199,124	13,977,243
1株当たり四半期(当期) 純利益金額	(円)	60.56	79.18	83.63
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額	(円)	60.48	77.67	82.17
自己資本比率	(%)	80.8	83.1	78.0

回次		第23期 第3四半期 連結会計期間	第24期 第3四半期 連結会計期間
会計期間		自 平成25年10月1日 至 平成25年12月31日	自 平成26年10月1日 至 平成26年12月31日
1株当たり四半期純利益金額	(円)	29.83	34.13

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 平成26年4月1日付で普通株式1株につき普通株式3株の割合で株式分割を行いました。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して1株当たり四半期(当期)純利益金額及び潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額を算定しております。

2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日において当社グループ（当社及び当社の関係会社）が判断したものであります。

（1）経営成績の分析

当第3四半期連結累計期間（平成26年4月1日～平成26年12月31日）の当社グループの経営成績は、下表のとおり、営業利益、経常利益、四半期純利益ともに前年同期実績を20%超上回る実績となり、通期（年間）の業績予想の85%を超える進捗率となりました。この実績は、第3四半期連結累計期間としても1四半期単位としても過去最高益の更新となります。

当第3四半期連結会計期間（平成26年10月1日～平成26年12月31日）の当社グループの案件成約状況は好調そのものであり、当第3四半期連結会計期間の成約件数は101件（前年同会計期間は75件であり対前年比34.7%の増加、譲渡・譲受は別カウント）、当第3四半期連結累計期間（平成26年4月1日～平成26年12月31日）の成約件数は251件（前年同累計期間は176件であり対前年比42.6%の増加、同じく譲渡・譲受は別カウント）と過去最多の進捗ペースとなっております。

	通期（年間）の 業績予想	当第3四半期 連結累計期間の 実績	前第3四半期 連結累計期間の 実績	通期の 業績予想の 進捗率	前年 同期比
売上高	11,000百万円	9,181百万円	7,602百万円	83.5%	+ 20.8%
営業利益	5,750百万円	4,956百万円	4,032百万円	86.2%	+ 22.9%
経常利益	5,750百万円	4,999百万円	4,042百万円	86.9%	+ 23.7%
四半期純利益	3,625百万円	3,166百万円	2,421百万円	87.3%	+ 30.7%

当社グループにおきましては、当社グループのコアコンピタンスたる会計事務所や金融機関等の情報ネットワークからお客様をご紹介いただく情報開発ルートと、セミナー企画等に基づき経営者の方からダイレクトに当社グループにコンタクトいただく情報開発ルートの双方を有しております。これにより、常々絶え間ない情報開発が可能であり、特定の業種や特定の大型案件に偏重することなく、多彩かつ豊富な案件ポートフォリオを有していることが当社グループの強みとなっております。

当第3四半期連結会計期間においては、平成26年10月24日から2日間に亘り「日本M & A協会理事総会」を長崎ハウステンボスにて開催し、総勢300人の理事会員会計事務所の先生方に参集いただきました。当総会では、M & Aを積極的に活用している会計事務所の先生方からその成功事例を公表いただき、会計事務所としてのM & Aの取組手法と実践ノウハウを先生方間で共有化していただきました。

また、平成26年10月より「経営者のためのM & Aセミナー」を東京、大阪、名古屋をはじめとする全国8か所で順次開催し、累計で約2,300名の方々に参加お申込みをいただきました。今回は地方都市でメッキ業を営まれていた経営者の方にM & A体験談をご披露いただき、ご参加いただいた経営者の方々に当社グループの推進する中堅中小企業の友好的M & Aについての理解を深めていただきました。

以上のとおり、当第3四半期連結会計期間においても当社グループの全国情報ネットワークの更なる活性化とダイレクトコンタクト案件の積極的発掘の双方に注力いたしました。

(2) 財政状態の分析

純資産合計は、12,633百万円となり、前連結会計年度末に比べて15.9%の増加となりました。

(資産の部)

流動資産は、12,294百万円となりました。これは、現金及び預金が486百万円増加し、売掛金が570百万円増加したことなどによります。この結果、前連結会計年度末に比べて8.7%の増加となりました。

固定資産は、2,904百万円となりました。これは、建物(純額)が58百万円増加し、投資有価証券が141百万円増加したことなどによります。この結果、前連結会計年度末に比べて8.9%の増加となりました。

これらにより、資産合計は、15,199百万円となり前連結会計年度末に比べて8.7%の増加となりました。

(負債の部)

流動負債は、2,123百万円となりました。これは、買掛金が157百万円増加し、未払法人税等が862百万円減少したことなどによります。この結果、前連結会計年度末に比べて19.7%の減少となりました。

固定負債は、442百万円となりました。これは、退職給付に係る負債が13百万円増加したことなどによります。この結果、前連結会計年度末に比べて3.1%の増加となりました。

これらにより、負債合計は、2,565百万円となり前連結会計年度末に比べて16.5%の減少となりました。

(純資産の部)

純資産合計は、12,633百万円となりました。これは、主として利益剰余金が、四半期純利益による増加額3,166百万円及び配当金の支払による減少額1,439百万円などにより、1,726百万円増加したことなどによります。この結果、前連結会計年度末に比べて15.9%の増加となりました。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	72,000,000
計	72,000,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成26年12月31日)	提出日現在発行数(株) (平成27年2月10日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	39,988,800	39,988,800	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数は100株であります。
計	39,988,800	39,988,800		

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成26年10月1日～ 平成26年12月31日		39,988,800		1,075,487		853,644

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成26年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 400		
完全議決権株式(その他)	普通株式 39,984,600	399,846	
単元未満株式	普通株式 3,800		
発行済株式総数	39,988,800		
総株主の議決権		399,846	

(注) 当第3四半期会計期間末日現在の「発行済株式」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(平成26年9月30日)に基づく株主名簿による記載をしております。

【自己株式等】

平成26年12月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社日本M & Aセンター	東京都千代田区丸の内一 丁目8番3号	400		400	0.00
計		400		400	0.00

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間(平成26年10月1日から平成26年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成26年4月1日から平成26年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	8,991,320	9,478,300
売掛金	314,324	884,500
有価証券	1,801,301	1,801,336
前払費用	33,551	36,715
繰延税金資産	159,682	65,898
その他	10,414	27,873
流動資産合計	11,310,594	12,294,624
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	66,765	125,556
その他（純額）	55,157	69,987
有形固定資産合計	121,922	195,543
無形固定資産		
投資その他の資産	64,917	86,004
投資有価証券	951,410	1,092,413
繰延税金資産	140,504	142,709
長期預金	1,100,000	1,100,000
その他	287,893	287,827
投資その他の資産合計	2,479,809	2,622,951
固定資産合計	2,666,649	2,904,499
資産合計	13,977,243	15,199,124
負債の部		
流動負債		
買掛金	100,393	258,197
短期借入金	100,000	100,000
未払費用	336,058	320,841
未払法人税等	1,580,055	717,424
前受金	5,706	25,191
預り金	67,675	111,969
賞与引当金	47,997	14,469
役員賞与引当金	104,000	100,040
その他	302,846	475,130
流動負債合計	2,644,731	2,123,263
固定負債		
退職給付に係る負債	52,979	66,331
役員退職慰労引当金	375,821	-
長期未払金	-	375,821
固定負債合計	428,801	442,153
負債合計	3,073,532	2,565,416
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,075,487	1,075,487
資本剰余金	853,644	853,644
利益剰余金	8,931,003	10,657,745
自己株式	31	1,322
株主資本合計	10,860,104	12,585,554
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	42,657	47,215

その他の包括利益累計額合計	42,657	47,215
新株予約権	949	938
純資産合計	10,903,711	12,633,707
負債純資産合計	13,977,243	15,199,124

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)
売上高	7,602,325	9,181,617
売上原価	2,429,967	2,845,918
売上総利益	5,172,357	6,335,698
販売費及び一般管理費	1,139,411	1,379,481
営業利益	4,032,946	4,956,217
営業外収益		
受取利息	3,637	3,764
受取配当金	2,296	2,403
投資事業組合運用益	-	24,409
持分法による投資利益	7,103	15,100
その他	326	2,220
営業外収益合計	13,364	47,898
営業外費用		
支払利息	723	698
投資事業組合運用損	3,217	
資本政策費用		4,233
営業外費用合計	3,940	4,931
経常利益	4,042,369	4,999,184
特別利益		
固定資産売却益	-	249
特別利益合計	-	249
特別損失		
固定資産除却損	286	
投資有価証券売却損	21,381	
特別損失合計	21,668	
税金等調整前四半期純利益	4,020,701	4,999,433
法人税、住民税及び事業税	1,597,752	1,743,929
法人税等調整額	1,151	89,173
法人税等合計	1,598,904	1,833,103
少数株主損益調整前四半期純利益	2,421,797	3,166,330
四半期純利益	2,421,797	3,166,330

【四半期連結包括利益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	2,421,797	3,166,330
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	33,404	4,350
持分法適用会社に対する持分相当額	22,626	207
その他の包括利益合計	10,778	4,557
四半期包括利益	2,432,575	3,170,888
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,432,575	3,170,888

【注記事項】

(継続企業の前提に関する事項)

該当事項はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。

なお、重要性が乏しいため注記を省略しております。

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額	1株当たり 配当額	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年6月26日 定時株主総会	普通株式	399,888千円	30円00銭	平成25年3月31日	平成25年6月27日	利益剰余金
平成25年11月13日 取締役会	普通株式	399,887千円	30円00銭	平成25年9月30日	平成25年12月9日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日
後となるもの

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額	1株当たり 配当額	基準日	効力発生日	配当の原資
平成26年6月26日 定時株主総会	普通株式	799,775千円	60円00銭	平成26年3月31日	平成26年6月27日	利益剰余金
平成26年11月12日 取締役会	普通株式	639,813千円	16円00銭	平成26年9月30日	平成26年12月8日	利益剰余金

(注) 平成26年4月1日付で普通株式1株につき3株の株式分割を行っております。

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日
後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

当社はM & Aコンサルティング事業という単一のセグメントであるため、記載を省略しております。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容
(差異調整に関する事項)

当社はM & Aコンサルティング事業という単一のセグメントであるため、記載を省略しております。

当第3四半期連結累計期間(自平成26年4月1日至平成26年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

当社はM & Aコンサルティング事業という単一のセグメントであるため、記載を省略しております。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容
(差異調整に関する事項)

当社はM & Aコンサルティング事業という単一のセグメントであるため、記載を省略しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎並びに潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額	60円56銭	79円18銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(千円)	2,421,797	3,166,330
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る四半期純利益金額(千円)	2,421,797	3,166,330
普通株式の期中平均株式数(株)	39,988,788	39,988,342
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額	60円48銭	77円67銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益調整額(千円)		
普通株式増加数(株)	52,458	778,445
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	平成24年3月新株予約権 普通株式 946,542株	平成24年3月新株予約権 普通株式 205,555株

(注) 平成26年4月1日付で普通株式1株につき普通株式3株の割合で株式分割を行っております。
1株当たり四半期純利益金額及び潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額は、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して算定しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

第24期(平成26年4月1日から平成27年3月31日まで)中間配当については、平成26年11月12日開催の取締役会において、平成26年9月30日の最終の株主名簿に記録された株主に対し、次のとおり中間配当を行うことを決議いたしました。

配当金の総額	639,813千円
1株当たりの金額	16円00銭
支払請求権の効力発生日及び支払開始日	平成26年12月8日

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成27年2月10日

株式会社 日本M & Aセンター
取締役会 御中

有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 遠藤 康彦

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 高木 政秋

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社日本M & Aセンターの平成26年4月1日から平成27年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間(平成26年10月1日から平成26年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成26年4月1日から平成26年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社日本M & Aセンター及び連結子会社の平成26年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。